

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人豊橋文化振興財団	
施 設 名	穂の国とよはし芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,881	(千円)
	公 演 事 業	24,318 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,337 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,226 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	PLAT ダンスセレクション 『ダンス・レジデンス作品集』	4年6月10-11日	アートスペース	出演：京極朋彦、富士山アネット、 BATIK	目標値	336
					実績値	274
2	イキウメ「関数ドミノ」	4年6月25日	主ホール	作・演出：前川知大 出演：浜田信也、安井順平、森隆二、 森下創、大窪人衛／温水洋一 他	目標値	510
					実績値	491
3	マームとジプシー 「cocoon」	4年8月6日-7日	主ホール	作・演出：藤田貴大 出演：青柳いづみ、菊池明明 他	目標値	686
					実績値	607
4	高校生と創る演劇 「せんをかく」	4年11月5-6日	アートスペース	作：田坂哲郎 演出：川口智子 出演：オーディションで選ばれた高 校生11名	目標値	440
					実績値	478
5	劇団チョコレートケーキ 「帰還不能点」	4年11月19-20日	主ホール	脚本：古川健 演出：日澤雄介 出演：浅井伸治、岡本篤、西尾友樹、 青木柳葉魚、東谷英人 他	目標値	686
					実績値	402
6	小曾根真 ニューイヤー・ ジャズライブ ディキシー ランド・メモリーズ	5年1月24日	主ホール	出演：小曾根真、北村英治、中川喜 弘、中川英二郎、小曾根啓、中村健 吾、高橋信之介	目標値	522
					実績値	631
7	木ノ下歌舞伎 「桜姫東文章」	5年2月18-19日	主ホール	作：鶴屋南北 監修・補綴：木ノ下 裕一 脚本・演出：岡田利規 出演：成河、石橋静河 他	目標値	686
					実績値	750
8	MONO「なるべく派手な服を 着る」	5年3月18-19日	アートスペース	作・演出：土田英生 出演：水沼健、奥村泰彦、尾形宣久、 金替康博、土田英生 他	目標値	220
					実績値	247

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若手音楽家育成事業	4年4月-5年3月	出演：オーディションで選ばれた若手音楽家10組18名 ※2公演を延期にて実施	目標値	1,073
		アートスペース		実績値	1,295
2	ワークショップファシリテーター養成講座	4年7月-5年2月	年間を通して前期・後期・報告会を実施する。講師：柏木陽、すずきこーた、吉野さつき	目標値	110
		創造活動室A		実績値	280
3	豊橋アーティスト・イン・レジデンス「ダンス・レジデンス2022」	4年5月-12月	滞在アーティスト：4組 児玉北斗（8名）、小嵐健太（2名）、仁田晶凱（7名）、石黒桃子（7名）	目標値	60
		創造活動室A		実績値	161
4	演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー	4年5月-11月	講師：川口智子（高校生と創る演劇演出）、木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）ほか	目標値	165
		アートスペース		績値	348

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	とよはしアートフェスティバル2022「大道芸 in とよはし」	4年5月4-5日	出演：中国雑技芸術団、加納真実、ココナッツ山本、オジロス 他 ※会場の変更	目標値	2,000
		主ホール		実績値	1,777
2	ぶらっと親子わくわくプログラム「ククノチテクテク マナツノボウケン」	4年8月23-24日	振付・演出：北村明子 出演：川合ロン、清家悠圭、岡村樹、黒須育海、井田亜彩実、永井直也	目標値	220
		アートスペース		実績値	169
3	セントラル愛知交響楽団 中学校鑑賞事業	4年9月6日	出演：セントラル愛知交響楽団 演奏曲：オッフェンバック喜歌劇「天国と地獄」より序曲 他	目標値	750
		ライフポートとよはし		実績値	955

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>穂の国とよはし芸術劇場では、舞台芸術を中心とした芸術と文化と人の出会いを生み出し、市民の交流と創造活動の拠点となることで、豊橋市及び東三河地域の芸術文化の振興と実演芸術の水準向上を図り、芸術文化を活用した市民の交流と創造の活性化を目指すことをミッションに、事業を組み立て実施している。</p> <p>令和4年度について、ほぼ全ての事業が予定通りに進められ、計画通り実施出来た。各事業の入場者数・参加者数の目標値と実績値についての分析は以下のとおりである。</p> <p>◎公演事業</p> <p>全8事業のうち、半数の4事業が目標値の入場者・参加者数に達しなかった。8事業全体でみると、目標の95%にとどまる結果となった。目標に達成しなかった事業は、秋季までの事業が該当しており、新型コロナウイルス感染症の影響で離れてしまった観客が再び劇場に足を運ぶことの難しさが影響したと考える。また、年明け以降に実施した事業では目標値を達成したことから、社会状況と相まって、徐々に回復傾向となったと考える。</p> <p>◎人材養成事業</p> <p>全4事業のうち、全ての事業の入場者・参加者数が目標値を達成した。全体として目標値を148%上回る結果となったが、専門人材、一般市民が享受する事業を年間を通じて実施することで、地域の人たちの期待に応え、その役割を果たしたと考える。</p> <p>◎普及啓発事業</p> <p>全3事業のうち、2事業が目標値の入場者・参加者数に達しなかった。一番の要因は、豊橋市内の屋外複数エリアを活用して実施する予定をしていた「とよはしアートフェスティバル2022『大道芸 in とよはし』」が、感染症の拡大や社会状況を鑑み、会場規模を劇場内ホールのみでの事前予約制としたため、当初の目標に到達できなかった。こういった形式のイベントに関しては厳しい状況が続いているが、継続して実施することが、観客や出演者、まちにとって最も重要と考えており、実施した意義は大きいと考える。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>◎文化的意義</p> <p>演劇、ダンス、音楽、大道芸等の幅広い事業を展開し、豊橋市や東三河地域における舞台芸術の鑑賞機会の提供に寄与し、文化・芸術的水準の向上に結び付いたと考える。また、「高校生と創る演劇」は開館2年目から実施しており、高校生がプロのスタッフとともに作品を創り上げる事業である。演劇創作のプロセスを通じて、若い世代が自分で考え、行動する力を身に着けた。将来的には地域の芸術文化を支える人材となることも期待され、過去の参加者からは実際に舞台芸術分野に進む人材も多数輩出している。</p> <p>◎社会的意義</p> <p>「高校生と創る演劇」や人材養成事業全体の参加者数が目標値を達成していることから、市民が劇場の取組に積極的に参加・関わることを期待し、また、結果としてもその期待に応える結果に結びついていると考えられる。</p> <p>◎経済的意義</p> <p>公演事業で実施したアンケート結果から、来場者居住지가「豊橋市内」38%「豊橋市外」62%となった。昨年の57%から5%増となっており、豊橋市内における来場者の消費行動にも結びついていると考える。</p>
<p>以上3点の結果から、助成に値する文化的、社会的、経済的意義は継続しているといえる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業5項目、人材養成事業3項目、普及啓発事業4項目の計12項目の目標の内、9項目を達成した。

◎新型コロナウイルス感染症の影響

一般参加者を募る形態の事業ではボランティア募集の中止や、ワークショップ参加者が集まりにくかった。また、「とよはしアートフェスティバル2022『大道芸 in とよはし』」は、感染症の拡大時期と重なり屋外での実施を取りやめ劇場内での実施に変更。若手音楽家育成事業「プラットフォームコンサート」では開催直前に延期となるなど、影響を受けながらも趣旨・目的、ニーズを踏まえて適宜変更しながら実施した。

◎観客層の開拓/地域における実演芸術の普及と水準向上

親子向け作品や中学校の鑑賞体験事業、「高校生と創る演劇」では若年層の観劇体験を広げた。リピーターや遠方の来場者を確保するだけでなく、新規会員の獲得も順調なことから、今後の観客層は拡大傾向にあると分析できる。

◎演劇・音楽・舞踊の専門的人材の養成/地域住民との交流

舞台芸術を通して地域の人々と交流するワークショップファシリテーターの育成や、ダンサーや地域に根差した音楽家に活躍の場を提供することで、市民とアーティストの交流を産み、舞台芸術と身近に触れ合う機会を提供した。

種別	目標	公演事業	実績	達成
公演事業	1	主催事業アンケート調査「来館回数」について「6回以上」の回答割合40%以上を目指し、実演芸術の鑑賞を身近なものとする。	「6回以上」52%を達成	○
	2	劇場の情報を定期的に提供する会員制度「プラットフレンズ」の会員数を前年度比5%増加させ、新規顧客の獲得を目指す。	R4年度新規加入者数：2,739名(7.3%増)を達成	○
	3	主催事業アンケート調査「居住地」について「豊橋市外」の回答割合50%以上を目指し、広範囲から来場者を集める。	豊橋市外の来場率62.0%を達成	○
	4	高校生と創る演劇「せんをかく」参加出演者・スタッフ事後調査で(1)オーディション～本番期間の満足度および(2)「高校生と創る演劇の継続を希望する」回答割合75%以上を目指す。	(1)「とても満足」59%「満足」35% (2)「継続した方が良い」100%を達成	○
	5	創作型公演では未来の観客や舞台芸術に関わる人材を育成することを目標とし、高校生と創る演劇における「高校生以下チケット」の購入割合を全体の30%以上を目指す。	チケット販売数内訳において「高校生以下」40.6%を達成	○
人材養成	1	若手音楽家育成事業にて、若手音楽家を毎年3組以上選考しコンサートを実施する。	R4年度オーディション選考組数：4組 コンサート開催回数：4回を達成	○
	2	ワークショップファシリテーター養成講座、演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー、ダンス・レジデンスの一般参加型事業において、募集定員の75%以上の参加者を集める。	R4年度参加申込割合：67% 達成できず	×
	3	ダンス・レジデンスの一般公募型ワークショップ・成果発表会で回収するアンケートで調査の「イベント満足度」について「とても満足」「満足」回答割合80%以上を目指す。	「とても満足」84%「満足」16% 一計100%を達成	○
普及啓発	1	とよはしアートフェスティバル2022「大道芸 in とよはし」において新型コロナウイルス感染症の対策を十分とったうえで屋外の場所を使用して発表を行う。	新型コロナウイルス感染症の拡大時期にあたり、実施会場を劇場内に変更し感染症対策を講じて実施。	×
	2	プラット親子わくわくプログラム「ククノチテクテク マナツノボウケン」における「こども」のチケット購入割合が45%以上となることを目指し、親子で安心して劇場に足を運べる機会を提供する。	チケット販売数内訳において「こども(高校生以下)」46.4%を達成	○
	3	とよはしアートフェスティバル2022「大道芸 in とよはし」の運営ボランティアの事後アンケートで「来年度以降も参加したいか」に「ぜひ参加したい」「予定が合えば参加したい」が75%以上とする。	感染症拡大防止のために一般参加者を事業運営に巻き込むような形態の事業実施が困難な状況であった。	×
	4	セントラル愛知交響楽団中学校学校鑑賞事業における中学生鑑賞者750名を目指す。	R4年度中学生鑑賞者：955名を達成	○

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和4年度の事業については、ほとんどの事業が計画通りに進めることが出来た。

開催時期によって感染拡大状況や感染症対策のガイドライン等が移り変わっていくなか、各事業で設定した趣旨・目的やニーズを踏まえながら柔軟に実施することで劇場職員の経験値を高めることにも繋がった。

【日程変更】

人材養成事業1＝若手音楽家育成事業

下記2公演とも、公演関係者の体調不良により10月11日に開催延期。会場・日程の都合から同日開催となった。

・8月2日 プラットワンコインコンサート Quintet Azalea

・9月2日 プラットワンコインコンサート 山本愛花音

【会場・募集対象者変更】

普及啓発事業1＝とよはしアートフェスティバル2022「大道芸 in とよはし」

例年ゴールデンウィークに開催しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大時期と重なっていたため、来場者数を制限出来ない屋外会場での開催はリスクが高いと判断し、穂の国とよはし芸術劇場主ホールに会場変更。

また、一般参加者を事業運営に巻き込むことが困難と判断し、運営ボランティアの募集は行わなかった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業全体の事業収支差】

交付申請時の収入予定額を100%として、実績報告時の収入額が89.6%となり、10.4%の減となった。

交付申請書の支出予定額を100%として、実績報告時の支出額が80.2%となり、19.8%の減となった。

考察：収入の減少に伴い、支出も減少することで、適切な事業費の執行が行われたと考える。収入が減少した理由の一つに、感染症対策のため最前列の販売を行わない公演があったため、当初予定していた目標に達成することが困難であった。

【人材養成事業全体の事業収支差】

交付申請時の収入予定額を100%として、実績報告時の収入額が80.7%となり、19.3%の減となった。

交付申請書の支出予定額を100%として、実績報告時の支出額が88.9%となり、11.1%の減となった。

考察：収入の減少に伴い、支出も減少することで、適切な事業費の執行が行われたと考える。収入が減少した理由の一つに、新型コロナウイルス感染症の影響により直前で開催延期となった公演があり、払戻しを行ったことが考えられる。

【普及啓発事業全体の事業収支差】

交付申請時の収入予定額を100%として、実績報告時の収入額が50.7%となり、49.3%の減となった。

交付申請書の支出予定額を100%として、実績報告時の支出額が84.4%となり、15.6%の減となった。

考察：収入の減少に伴い、支出も減少することで、適切な事業費の執行が行われたと考える。収入が減少した理由の一つに、親子向け公演で金額設定の低いこどもチケットの入場者が想定以上に多かったことが考えられる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

穂の国とよはし芸術劇場では、豊橋市をはじめとする東三河市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため、文化芸術交流施設として平成 25 年 4 月に開館した。開館以降、経験豊かな芸術文化プロデューサーやテクニカルマネージャーをはじめとするスタッフと、芸術監督的役割を担う芸術文化アドバイザーと共に、地域の文化拠点として事業を実施・計画している。

◎芸術文化アドバイザー

桑原裕子(劇作家・演出家・俳優・劇団 KAKUTA 主宰・平成 30 年度 4 月就任)。

劇場の方向性や事業等について、芸術文化プロデューサーやスタッフらと共に、計画推進している。桑原アドバイザーは、当館のプロデュース公演として上演した『荒野』初演時(平成 30 年 11 月～12 月)に、第 5 回カドカワ「悲劇喜劇」賞並びに第 70 回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞。また、桑原裕子が作・演出を務めた『ひとよ』は 2011 年に初演、2015 年にも再演され、2019 年には映画化(監督:白石和彌)されるなど、高い評価を得ることで、地方から創造し、発信する劇場として、その存在を内外にアピールしている。

◎公共劇場との連携

公益財団法人新国立劇場運営財団とは、令和 2 年 2 月に連携・協定に関する協定を締結。この協定では、それぞれの劇場等で実施する公演のほか、人材の交流・育成などについて緊密な協力関係を築き連携を深めることで、劇場の活性化に資するとともに、地域における実演芸術の普及向上、教育及び文化の振興に寄与すること、ひいては豊橋市の芸術文化の振興に貢献することを目指している。また、令和 4 年度に実施した「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」(普及啓発事業 2)は神奈川芸術劇場が製作して上演した作品を豊橋でも上演した。今後もこのような公共劇場同士が作品の共有や共同制作を通じて連携することにより、地域の観客は多様な作品に触れる機会を得ることができる。また、異なる劇場が持つ個性や演劇のアプローチが交流することで、舞台芸術の新たな視点や創造性が生まれ、芸術文化の発展にも寄与していく。

◎人々が集う場・地域における文化拠点としての存在

穂の国とよはし芸術劇場では、開館以前から継続的に実施している「とよはしアートフェスティバル『大道芸 in とよはし』」を令和 4 年度も感染対策を講じながら実施した(普及啓発事業 1)。大道芸パフォーマンスを通じて地域の人々に楽しみや驚きを提供し、継続的に実施することで地域の人々にとって特別なイベントとなり、穂の国とよはし芸術劇場を訪れるきっかけとなり、地域の文化拠点としての劇場の存在感を高めた。また、「高校生と創る演劇『せんをかく』」(公演事業 4)のように、地元の高中生とプロの演出家・スタッフが共同で舞台作品を創り上げる事業により、若い世代が芸術の創造的なプロセスに参加し、舞台上で自己表現をする機会を得ることができた。地域の高中生にとっては地元の劇場での公演経験ができることで、芸術に対する興味や関心を高め、将来的にも芸術活動への参加が期待できる。「PLAT ダンスセレクション『ダンス・レジデンス作品集』」(公演事業 1)では、過去に豊橋にてレジデンスの経験をもつダンスアーティストによる作品集の公演を通じて、地域の市民にダンスの魅力を身近に体験してもらい、ダンスに触れたことのない人々がダンスの表現力や感動を実際に体感し、ダンスに対する興味や理解を深めることができた。これからの地域におけるダンス文化の普及と支持基盤の形成に寄与できたと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

劇場という建物としてのハードウェア機能と組織としてのソフトウェア機能を最大限に活用し、舞台芸術の鑑賞人口の裾野を拡げ、鑑賞機会を増やすことを目的に事業に取り組んだ。

◎公演の企画内容、芸術性

公演事業では、PLAT ダンスセレクション『ダンス・レジデンス作品集』、イキウメ『関数ドミノ』、マームとジプシー『cocoon』、高校生と創る演劇『せんをかく』、劇団チョコレートケーキ『帰還不能点』、小曾根真ニューイヤー・ジャズライブ「ディキシーランド・メモリーズ」、木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』、MONO『なるべく派手な服を着る』を上演した。イキウメ『関数ドミノ』（公演事業2）は、地方で鑑賞機会の少ない劇団の公演を招聘することで、豊橋市外からの来場者86%という結果でほかの事業よりも高い数値となり、他地域から豊橋市を来訪するきっかけに繋がった。マームとジプシー「cocoon」（公演事業3）では、25歳以下のチケット購入者の18.6%を占め、観劇経験の少ない若年層にもアプローチができた。このように、上質な作品を幅広くコンスタントに上演することで数多くの来場者を迎えることができた。

人材養成事業では、「若手音楽家育成事業」（人材養成事業1）は、コロナ渦において活動しづらい状況にあった音楽家たちの演奏活動の機会を創出するとともに、継続して実施することで当日券購入者が入場者数の約18%を占めるなど、市民が気軽に足を運べるコンサートとして市民生活に溶け込んだと言える。「ワークショップファシリテーター養成講座」（人材養成事業2）では、市内の小学校・中学校・特別支援学校等へ出向いて実施している演劇・舞踊・音楽のワークショップ事業のファシリテーター（進行役）を地元地域で育成するため実施している。修了生からは学校行きのワークショップのアシスタントやコーディネーターとして活躍する人材が育っている。豊橋アーティスト・イン・レジデンス「ダンス・レジデンス2022」（人材養成事業3）では、入場料が必要な公演事業とは違い、無料の成果報告会やワークショップ、稽古場公開などを実施し、普段劇場に足を運ばない未就学児や年配層などの市民が参加した。アーティストたちの創作への着眼点や興味の深め方を直接体験することで、市民の生活や感覚をアップデートする良い機会を提供できた。

普及啓発事業では、「とよはしアートフェスティバル2022『大道芸 in とよはし』」（普及啓発事業1）は毎年ゴールデンウィークに、豊橋駅周辺の街なかの複数の会場で開催していたが、感染症対策のために劇場のホール内のみで開催した。このことにより、演劇、舞踊、音楽などの公演事業では足を運びにくい人々も劇場に来館することができ、劇場への認知度や親しみが高まったと考える。「セントラル愛知交響楽団中学生鑑賞事業」【普及啓発事業3】では、新型コロナウイルスの影響で芸術鑑賞の機会を失っていた多くの生徒に、初めてのオーケストラの演奏を鑑賞する機会を提供できた。これにより、中学生の音楽鑑賞の興味関心を高めることに寄与できた。

◎文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

当館のホームページにて「運営方針」を掲載している。また劇場ホームページやSNS（Facebook、Twitter）、2カ月に1回発行する財団広報誌「プラットニュース」、YouTubeチャンネル、豊橋市のコミュニティラジオ（FM豊橋）での毎週の番組出演、地元新聞社（中日新聞、東愛知新聞、東日新聞）等への情報提供などをコンスタントに行い、常に情報発信を心掛けている。また、毎年実施している「高校生と創る演劇」「豊橋アーティスト・イン・レジデンス『ダンス・レジデンス』」「ワークショップファシリテーター養成講座」では、活動報告書を冊子として発行し、劇場ホームページからも閲覧できるようにしている。常に新しい情報を複数のチャンネルで発信するとともに、人材養成事業、普及啓発事業を中心に報告書として活動記録を蓄積している。当館が連絡通路により直結する豊橋駅は、JR新幹線、東海道本線、飯田線、名古屋鉄道等の多数の鉄道路線が伸び、加えて路面電車・路線バスの公共交通機関も集中し、「東三河の交通拠点」として位置づけられている。この立地条件を活かし、東三河エリアだけでなく、関東・関西・全国・海外といった広範囲からも集客実績を上げている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◎事業運営

穂の国とよはし芸術劇場は平成 25 年の開館以来、事業運営を「公益財団法人豊橋文化振興財団」、施設維持管理を「PFI 事業者による管理(15 年契約)」とする併用方式を用いている。当館を運営する(公財)豊橋文化振興財団は、設置自治体である豊橋市からの指定管理のもと管理運営を行っており、3 期目も令和 3 年 4 月から 5 年間の指定管理者としての指名を受けている。

◎経営戦略

・劇場の活用方法の提案

開館以降実施する公演事業を始め、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会の提供を通じて、観客層の拡充を図っている。また、並行して実施している劇場を活用した参加型のワークショップや講座、市民や高校生が参加する演劇作品への参加者は年々増加傾向にあり、参加型・知的好奇心をさらに高める事業に対するニーズは高まっている。このように、鑑賞事業・参加型事業の双方に期待する市民に向け、バランスよく事業を展開することで、市民に向けて劇場の活用方法を提案し、活気あふれる劇場としての魅力を創出する。

・財政基盤の強化

特定費用準備資金(地域還元人材育成事業積立金)を用意し、将来の地域を担う人材育成事業を長期的・継続的に実践するための財源を確保している。広報誌への広告協賛や、財団維持会員(年会費 3,000 円~20,000 円)・特別賛助会員(一口 50,000 円/年間)制度を設け、個人や文化団体、地元企業からのファンドレイジングを行っている。地元企業から「特別協賛」として、年間 4 公演を対象に協賛金を獲得した。

◎人事戦略

事業制作部と舞台技術部職員は、雇用期間に応じて雇用形態の転換を行っており、初年度に嘱託職員、2 年目から 4 年間は任期付き職員に転換。勤続 6 年目以降は無期雇用に転換している。令和 4 年度は以下の通り。

- ・事業制作部(無期雇用：8 名、任期付き：3 名、嘱託：1 名、アルバイト：1 名)
- ・舞台技術部(無期雇用：2 名、任期付き：2 名、委託業者：4 名)
- ・総務・経理部(期間を定めない雇用：3 名、嘱託：2 名)

◎他館、劇団等の創造団体とのネットワーク構築

開館以降、全国の公立劇場とのネットワーク構築に努めており、新国立劇場とは連携協定を締結している。また、今年 4 年度はこれまで関係性を構築した芸術団体の作品招聘に力をいれた。感染症の影響で、ここ数年活動を停滞・縮小せざるを得ない状況に置かれている団体に上演機会を提供し、今後も継続した創作・上演活動につなげることを期待している。集客面では苦勞する部分もあるが、地方の劇場として上演機会を設けることは、日本全体における舞台芸術を支える環境整備として非常に重要であると考えている。

◎PDCA サイクル

当劇場では、助成の趣旨を理解し、劇場のミッションを実現する事業を計画し(P)、このことに基づき、芸術文化アドバイザーや劇場職員、アーティストが協同し事業を実施する(D)。その後、鑑賞者や参加者から回収するアンケート調査や、豊橋市内で課題となっていること等のリサーチを行い(C)、次年度以降の事業をどう発展するかを検証し、継続事業については見直しを図る(A)。このような体制を作り、持続的に発展する劇場として運営している。